

## 大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）中間評価結果表

大 学 名	東北大学
整理番号	r - 2
事 業 名	日露間における新価値創造人材の育成

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</span>	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本事業は、日露学長会議の日本側幹事校として共同議長を務めるなど長年培ってきたロシアの教育研究機関との交流実績をベースとして、それにより構築されたロシアの大学との密接なネットワークを活かして日露の懸け橋となるグローバルリーダーを育成することを目的としており、広範な学術分野において学部から大学院に至る段階的な学生交流プログラムを計画している。</p> <p>事業の展開にあたっては、ロシアの高等教育制度改革に大きく影響される面があるなかで、当初の構想に沿いつつも新たに生じる課題に対処しながら取組が進められている。</p> <p>派遣・受入学生の支援体制については、学内に設置したロシア交流推進室の機能の充実を図るほか、極東連邦大学内（ウラジオストク）にも現地事務所の開設の見通しがたち、既存のモスクワとノボシビルスクの事務所と併せて三拠点のサポート体制が確立することから、学生に対するきめ細やかなサポート及び大学間の連絡・情報共有への活用が期待される。</p> <p>一方で、中間評価までの交流学生数について、総数では目標をほぼ達成しているものの、単位取得を伴う派遣・受入数は目標を下回っている。「異文化体験型学生交流プログラム」の単位化が認められたことにより、今後は単位取得を伴う交流学生数の増加が見込まれ、目標を達成する見通しがついたことは評価できるが、本事業の目的を考慮するに、長期の派遣・受入について早急に軌道に乗せることが必要である。そのためには進捗の遅れている「共同教育型プログラム」について早期の確立を目指すとともに、日本人学生の派遣については、学生にとってのメリットをより明確化するなど一層の工夫と努力が必要である。</p> <p>また、ダブル・ディグリーあるいはジョイント・ディグリーについて、その前段階として、ジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリーに取り組んでいるが、将来的にダブル・ディグリーあるいはジョイント・ディグリーに展開するにあたっては、相当のプロセスを踏む必要があると考えられる。この点では今後の展開が注目される。</p>	